

2010年(平成22年)

第29号

(5月15日)

平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 宮地啓安
 〒605-0041 京都市東山区三条蹴上
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

ARMS DOWN! 各地で署名を展開中

京都教会において、「核兵器の廃絶、そしていのちを奪うために使われる軍事費の10%を、いのちを守るために使うことを要請する署名『アームズダウン』の取り組み」が広がっている。4月17日、四条川端交差点において、青年部員が街頭署名に立ったのを皮切りに、各地で一般市民に「アームズダウン」署名を実施している。



中でも、5月1日から、清水寺の協力を得て、同寺の境内において、全国からの観光客に対して実施している署名には、毎回2千人前後の署名が集まっている。

修学旅行生や若いアベック、家族連れから、海外の観光客からも署名してもらっている。さすが、観光都市・京都の清水寺だけあって、毎日、切れること

のない人の流れがある。加えて、清水寺のバックアップもあり、署名は順調に進んでいる。

清水寺での署名は、5月16日、19日、20日、22日、23日、24日、28日、29日、30日と実施される。6月以降も予定されている。

そのほか、亀岡宗教懇話会や多くの寺社の応援もあり、宗派の枠を超えた、平和への願いを込めた署名活動が日々広がりを見せている。

また、各界のトップリーダーの方たちの署名も多くなっている。4月30日、京都市役所において、門川大作京都市長が署名された。今後も、各界から「アームズダウン」の賛同者が増えてくることだろう。

このほか、会員やその家族が、職場や地域において、一人ひとりとの出会いを通して、署名を働きかけている。

9月25日まで、この運動に、京都教会挙げて取り組み、目標の実現を図る。



NPT会議で「アームズダウン」紹介

5月7日のNPT再検討会議において、「NGOからの提言」セッションが開催された。さまざまな市民の代表から公式に、NPT会議に参加している各国政府代表、外交官に対して提言をおこなうこのセッションにおいて、WCRP国際軍縮安全保障委員会の杉谷義純委員長(天台宗宗機顧問)が「宗教者からの提言」というテーマでスピーチを行い、ARMS DOWNキャンペーンを紹介した。

杉谷師は、宗教信条に基づく人や組織は、核兵器廃絶のために各々のコミュニティーに働きかけを行い、

地球規模の運動を行うべきと語り、その活動として、ARMS DOWNキャンペーンが展開されていると発表した。

NPT会議の場で、ARMS DOWNキャンペーンが紹介されたことにより、公式に国連という国際政治の場においてARMS DOWNが認知されるようになったと言える。

同席していたWCRPスタッフは、「このキャンペーンが単なる署名活動という世論喚起のみで終わるのではなく、しっかりと国際政治における政策として反映されるための道筋がつけられた」と感じたという。

時事刻々
 中国・上海で五月一日、上海万博が開幕した。史上最多の百八十九カ国と五十七の国際機関が参加。一〇月末までの百八十四日間に、過去最高だった大阪万博の約六四二〇万人を上回る七〇〇〇万人の来場を見込んでいます。
 しかし、開幕しても工事中のパビリオンがあたり、コピー商品などの盗作問題、入場者のマナーの悪さなどが報道されています。
 上海万博が、世界の交流を高め、お互いの理解につながる、世界の平和に役立つことを期待したい。
 日本、中国、韓国の仏教と文化の交流を通じ、「黄金の絆」を強め、世界平和に貢献することを目的に結成された「日中韓国際仏教交流協議会」が、今年の一〇月に中国で開催される予定だ。
 宗教者が国の壁を乗り越えて、同じ目的に向けて行動することで、世界平和が実現することを願いたい。

本会の社会や政治へのかかわりについて (開祖庭野日敬法話にみる)

本会がどうして平和活動を進め、他団体と交流し、政治にかかわっていかうとするのか、開祖・庭野日敬の法話を基に、その考え方を紹介することにします。

信仰者がなぜ社会や政治に呼びかけなければならないのか、会員の中には「信仰のために入会したのであって、政治をするためでない」と考える人もいます。しかし、この点について、庭野開祖は次のように述べています。

「信仰者の団体が、なぜ社会や政治に呼びかけなければならないかと言えば、(中略)個人単位の救いは広がり方が遅々としていて、世の中の立て直しに間にあわないのでは、という思いをすることが多いのです。そこで、個人への働きかけと並行して、社会や政治への呼びかけをせざるをえないのです。」

と述べています。また、トインビー博士の話を用いて、庭野開祖は次のように示しています。

「トインビー博士の言われるところを、私流に翻訳すれば、『個人だけでなく、個人が集まってつくっている各種の共同体も、相共に自己中心の考え方を改めて、

宇宙の大いなるいのちに魂を通わせ、その根本道理に随順する生き方に切り替えてこそ、初めてこの世に永続的平和が現出するのだ』ということです。」

私たちは、自分にとって都合が悪いことが起こると、他人や政治、社会の責任にしようとし、個人だけでなく、会社、団体、地域、国家などの共同体も、他の非難をすることが多いが、自らの自己中心性を反省しようとしません。だから、信仰者が個人にも共同体にも働きかけることが必要なのです。

政治について、開祖は次のように述べています。「たんに生活を幸せにするだけでなく、正しい道教え、立派な人間に育てあげるのが、本当の政治です。」
「政治というものは、心のない政治であってはなりません。」

そして、人々を幸福にするためには、宗教と政治が共に必要だと言っています。

「人間の心を正しく、明るく、豊かにする 宗教 と、人間の現実生活を正しく、明るく、豊かにする 政治 とは車の両輪であって、どちらを欠いても社会はアンバランスな状態に陥るのです。」 (つづく)

ユース21 京都定例総会を開催

平成22年4月20日に立正佼成会京都教会普門館会議室に於いてユース21 京都の定例総会が開催され、役員はじめ加盟団体の代表者が出席した。

京都市成人式、全国車いす駅伝、コミュニティーネットの各事業報告及び計画発表の後、新理事長に澤村悦弘氏(京都教会青年部長)が満場一致で選出され新たなユース21 京都の顔となった。また各加盟団体の

代表者に於いても数名の入れ替わりがあった。新役員のもと新しい歴史を作っていくことを期待したい。



他教団活動紹介 (中外日報4月27日より)

途上国の貧困撲滅へ 寺院にできることは何か

仏教NGOネットワークは5月24日午後2時から東京都港区の浄土宗大本山増上寺境内の明照会館で第18回研修セミナーを開催する。国際協力NGOセンターの山口誠史事務局長を講師に招き、ミレニアム開発目標の達成に向けて、発展途上国の貧困問題を身近なものとして学び、教団や寺院にできることの実行を目指す。申込みはBNN事務局 03(3820)7323へ

私たち kinki.元氣 ~大阪教会の記事より~

4月12日(月)初めて布教に歩かせて頂きました。一人では心細いと思います。でもペアで歩くことで勇気が持てました。お店の女性の方に教団月刊誌「佼成」の本を渡しました。良い縁、新しい縁に触れその方が「佼成」を読んで、何かに気づき幸福になってもらえたらと思う気持ちを込めました。私自身も教えを広めて行くお手伝いをさせて頂くことで喜びを感じました。有り難うございました。

エコキャップ回収状況 4月末現在 7,600個 (ワクチン9.5人分)

分類	個人・企業・団体名	営業所・支店・他	所在地	集積収集数 回収最終日
28274 宗教団体	立正佼成会	京都教会	京都府 京都市東山区東町	7,600 2010/04/17

宇治明社 第20回バザールを開催

5月9日、宇治市総合福祉会館前で、宇治市明るい社会づくり運動の会主催の「第20回福祉バザール」が開催された。好天に恵まれ、盛況なバザーだった。

1990年に第1回のバザールを開催して以来、毎回収益金を市社協の「ふれあい基金」に寄付してきた。今回は、437,942円を寄付、累計は約820万

円になった。

今回は「明るく、楽しく、感謝して」をテーマにしたバザールでは、日用品・贈答品など会員からの提供品などの物品を安価で販売。20回目を記念に、健康グッズや清酒、掃除機、エコバッグなどが当たる福引を初めて実施。

また、同会場において、「アームズダウン」の署名も呼びかけ、約240名の協力を得た。

倭成のこたば (行法ガイドブックより)

自分が変われば相手が変わる

人との出会いは因縁です。私たちは人からやさしい言葉をかけられると気持ちも穏やかになり、憎たらしいことを言われると怒りの心が起こってきます。人間はだれもが仏性を具えているのですが、その場のかかわり方によって、自分も相手もいかようにも心が変わります。これらはすべて果報です。果報は因と縁が和合した世界ですから、果報は縁のあるがままの姿であると同時に、因のあるがままの姿でもあります。いわば、因縁も果報も共有しているのです。

ここで大切なことは自分が果報の原因を縁に求めるか、逆に果報を自分のものと受け止めていくかが問題なのです。人のせいにはばかりしては因縁は変わり

ませんから、果報に何の変化も現れません。むしろ、「自ら」という気持ち 果報を自分と悟っていけば、自らを内省し、至らない自分を懺悔することもできます。自分の愚かさに気づいた時、法に照らして生まれ変わろうと努力するようになってきます。

このようにして自分が変わる、つまり因が変わるから、因縁も変わってきます。相手の立場になり、相手の心を察しながら出会いのご因縁を結んでいくのですから、おのずと果報が変わり、相手も環境も変わってきます。まさに「自分が変われば相手が変わる」のです。

この言葉は非常に優しい表現ですが、これを本当に体得することは真理を悟ったといっても過言ではありません。まさに、生きながらにして生まれ変われるといえるほどの大きな変化が現れてくるのです。

仏教を生活に生かす 「日常生活の中の仏さまの教え」

【心の中の宝物・・・仏性開顕】

庭野開祖は「自分が仏の子であると気づくことが、**仏性開顕だよ**」と、おっしゃっていました。私たちが歩んでいるのは、幸せになる道です。幸せになるためには、現実の苦の中に隠れている仏さまを、自らが発見しようと努力しながら歩むことが大事です。

自分の授かっている仏性という素晴らしい宝物を発見しようと努力することで、心が豊かで穏やかな、幸福な生活を築き上げることができます。宝物を持っていても、持っていることを知らなければ、そこにないのと同じで役に立ちません。そこに宝物があることに気づくことが、救われの第一歩です。

庭野光祥次代会長は、ご家庭の中でのこんなエピソードを紹介しています。「ある朝のこと、登校前に長女が学校の日記帳を広げると、ページいっぱいに落書きしてあるのが見つかりました。前の晩に妹が描いたものでした。

いつも物を大切に、きれいに使っていた長女は、とても傷つき、悲しそうでしたが、当時一歳半の小さな妹には怒りをぶつけることもできません。目を見開いて涙をこらえる長女に、『ごめんね。きっとお姉ちゃんみたいに勉強してみたかったのよ。意地悪でやったんじゃないのよ。許してあげてね』

そう声をかけたものの、サインペンで描いた絵は消すことができず、そのまま学校へ行きました。ところが、学校で長女の提出したノートを開いてみたところ、担任の先生は、長女にこうおっしゃったそうです。

『**これどうしたの？妹さんが描いたの？よくできたねえ**』そして、いたずら書きの上に大きな花丸を書いて、『たいへんよくできました』のハンコを押してください、その上、その日いちばんよくできた人にしかもらえないシールを貼って下さったのです。

長女はびっくりしました。学校から帰ってきて、この話をしてくれた長女の顔は、本当に嬉しそうでした。そして、『先生が上手だねって褒めていたよ。このシール、お姉ちゃんもずっと欲しかったんだけど、なかなかもらえないんだよ。よかったね』と、妹にやさしく声をかけ、シールを渡していました。

それからは、妹が同じようなことをしても、『よくできたね』と、褒めてくれるようになりました。先生は、**長女の中にある宝物を、花開かせて下さいました**」

気づけば、見える世界がたちどころに変わります。自分と同じように、ほかのすべての人も仏性であるという真実を悟ると、人さまに対する見方も変わらずにはいられないのです

庭野開祖の宗教観・平和観 「一乗の道」

《ホワイトハウス》

会議の9日目は「ワシントン・デー」と名づけられた行動の日だった。代表団一行は、夜も明けきらぬ中を、前夜、一晩中吹き荒れたハリケーンの余波の風雨について、数台のバスに分乗してワシントンに向けて出発した。

ハイウェーを5時間走って、米国の首都ワシントンに到着した。上院議員会館で有力な国会議員の方々と会談して、世界宗教者平和会議の活動について説明を行ったあと、大統領官邸に向かった。

ホワイトハウスでは、カーター大統領がロザリン夫人とともに、私たち一行を出迎えて下さった。大統領は11歳の時に洗礼を受けた熱心なクリスチャンである。国の運命を左右するような重大な決定を下すときには、「その決定について、私は神の導きを求めるのです」と話される人であった。やわらかな笑顔を浮かべて私たち一行の一人ひとりに手を差し伸べ、大統領は語りかけた。

「今日、おいで下さった48ヶ国のそれぞれの宗教を代表する皆さんが、人類の生存と存続のために真剣に話し合われ、大きな目標を掲げて日々活動しておられるとお聞きして、大変心強く思いました。皆さんがなさる最も大きな仕事は、指導者を教育することでありましょう。宗教界における指導者はもちろんのこと、政治、経済をはじめ、さまざまな分野の指導者を導き育てることで世界を平和に導こうと努力されている、皆さんの事業の成功を祈ります」

カーター大統領については、経済政策や対ソ関係で大統領としてあまり成果を上げることが出来なかった、といった声もある。「デタント(緊張緩和)でソ連の核優位を許してしまった」といった批判もあった。だが、キャンプ・デービッド会談を実現させ、武器輸出の自粛を打ち出すなど、平和的信念を貫き、大統領退任後も世界の紛争解決に素晴らしい働きをされていることは、皆さんもご存知のとおりである。

第3回世界会議は、様々な成果をおさめて幕を閉じた。庭野開祖がとりわけ忘れられないのは、趙樸初師との出会いだった。会議のさなか、忙しいスケジュールの中で、趙樸初師とくつろいで語り合うひと時を持

つことが出来た。趙樸初師は物静かに話される方だった。

「私はアメリカを訪れたのは初めてです。そして何よりも胸を打たれたのは、この会議に集まった宗教者のひたむきな姿でした。国籍も民族も言葉も違い、そして信じる宗教を異にしている人たちが、様々な方向から世界平和のために真摯な努力を重ねている姿を目の前に見て、強烈な印象を受けました」

庭野開祖も、趙樸初師にぜひ伝えたいことがあった。「5年前にお国にお招き頂いた時に、第二次世界大戦の終戦処理についてのお考えを伺って、大変感銘を受けました。あの戦争で日本がお国に重大な被害を与えたことをお詫びすると、趙先生をはじめ皆さんが、『中国と日本は二千年にわたって友好関係を結んできたではありませんか。それから見ると、仲たがいはしたのほんの一時のこと、それは親しいあまりの夫婦げんかのようなものです。むしろ、その時期があったお陰で中国は革命を成功させることが出来たのです』とおっしゃって下さいました。

その言葉を聞いて、中国の皆さんの心の広さに打たれたのです。こういう大きな発想こそ世界の宗教者の会議に欠かせない、いちばん大事なことであり、本当の平和は、こういう考えから生まれるのだと肝に銘じさせられました」と述べたのである。

趙樸初師も、「いや、庭野先生は身を持って一つの教えを説かれています。その教えは、人間が大願を持ってそれに全力を傾注すれば、それは必ず現実のものとなるという教えです」と答えた。

「私ひとりでは何も出来ません。世界の宗教者が異体同心になった時、それがどれだけ大きな力になるか、神仏が見せて下さっているのです」「中国にも、大勢の人間が一つの道理にのっとって行動を起こせば必ず成功する、という教えがあります。いくら正しい道理であっても、黙って見ているだけでは力になりません。みんなで行動を起こさなくてはなりません」と、二人の間でこのような会話が交わされた。

プリンストンでのこの出会いをきっかけにして、庭野開祖と趙樸初師の親交は深まり、日中間の仏教交流が深まって行くのであった。

(つづく)

渉外部からのメッセージ

個人的なことですが、先日ご本部大聖堂の聖壇当番のお役を頂きました。ご本尊は中央に久遠実成大恩教主釈迦牟尼世尊、周りに四大菩薩が配置されていますが、ある方が四大菩薩の光背がゆがんでいることに気付かれました。これは仏像を完璧に作ると精進しなく

なるという錦戸新観先生の意図なのですが、それをそのまま承認された開祖さまの偉大さを改めて感じました。我々の努力精進で完璧なご本尊にしたいものです。この月報を読まれて感想などがありましたらお気軽にお寄せ下さい。 RKK 京都教会 FAX 075-762-2266